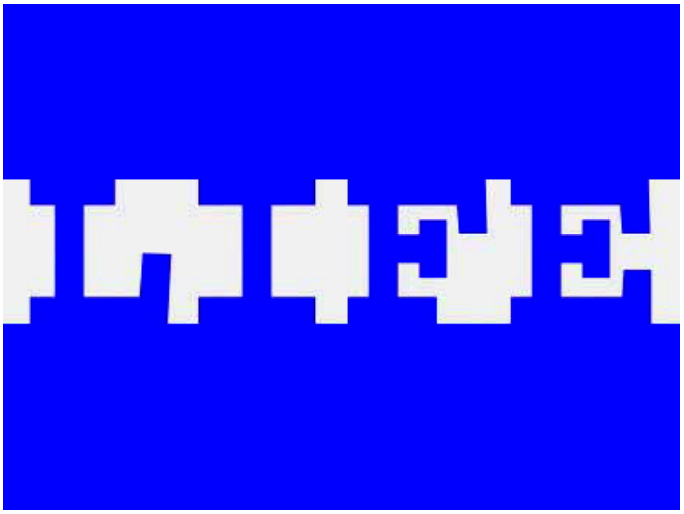
見方・考え方を変えて

一年七組　三谷楓真

日常生活の中でも、一つの絵をＡと見たりＢと見たりして判断することがあるだろう。でも、少し見方を変えると、ＡにもＢにも見えてくる。

左の図を見てみよう。昔懐かしいゲームの画面のように見える。上下の黒い部分を隠してみよう。すると、ＬＩＦＥ（ライフ）と見えてくるだろう。このように、中心に見る物を変えると、その物の感じ方が変わってしまう。



日常生活でいうと、初めて会った人を見て、「この人は〇〇な人だ。」と第一印象で決めてしまうことはないだろうか。でも、少しその人と付き合ってみれば、本質が見えてきて、さっき決めつけたイメージとは全く違ってくるかもしれない。

左の絵は、一見すると、特別な絵でもない。手前にテントが張ってあり、川岸には何人もの馬に乗った人々がいる。だが、この絵の人々はまだこれから起こる恐怖に気づいていない。川をはさんだ、人々の反対側の岸に注目してみる。木がたくさんある森の部分に、獲物をねらうオオカミが数匹いるのが分かるだろうか。

「∵」こうして、点を三角形状に書いただけで、顔に見えるのが分かるだろう。しかし、これも、ただの点だと思ってみると、顔には見えてこない。「これは、〇〇だ」と思うことによって、人は何の絵かを判断している。

このように、人々は、角度や距離、中心の見方を変えて、他の絵を見つけ出すか、「これは〇〇だ。」と思って、その絵のもう一つの絵を見つけ出すことができる。